

検定試験の自己評価シート

自己評価実施日：平成30年9月7日

検定事業者名：日本謎解き能力検定協会(株式会社SCRAP内)

検定試験名：日本謎解き能力検定

【4段階評価の目安】

A：達成されている B：ほぼ達成されている C：やや不十分である D：不十分で、改善すべき点が多い

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題 ・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
I 検定試験の実施主体に関する事項	【評価の視点】 検定試験を継続的・安定的に実施するために必要な組織体制や財務基盤を有するとともに、受検者や活用户(学校・企業等)への適切な情報公開と個人情報の保護がなされていること。また、実施主体自身が、PDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に事業を改善していく組織となっていること。					
	① 組織・財務	1	《検定試験の目的》 ○検定試験の目的が明確であるか。	当検定は、「謎解き能力」を「ひらめき力」「注意力」「分析力」「推理力」「持久力」という5つの指標で判定することで、特設の課題に対して多角的なアプローチから解決策を検討する思考能力と創造性を育成することを目的としております。 目的達成のため下記の事業を行っております。 (1)検定事業 (2)出版・教材開発事業 (3)イベント事業 (4)人材育成事業 【謎検について】 https://www.nazoken.com/intro.html	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		2	《検定事業の実施に関する組織体制》 ○検定試験の目的を達成するための組織として、検定事業実施体制(役職員体制、事務処理体制、危機管理体制、内部チェック体制等)が適切に構成されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 役職員体制 <input checked="" type="checkbox"/> 事務処理体制 <input checked="" type="checkbox"/> 危機管理体制 <input checked="" type="checkbox"/> 作問体制 <input checked="" type="checkbox"/> 内部チェック体制 役職員体制：職員の能力・業績に応じて、効率的な運営体制を構築できる体制を整えている。 事務処理体制：円滑な検定試験の実施、受検者や利用者への適切な対応のため統括部署を設置し、業務フローに従いチェック機能を設け、事務処理にあたっている。 危機管理体制：不測の事態に備え、対応ガイドラインを整備し、これに従って対応体制ならびに対応方法と各部署の役割を明確にしている。 作問体制：アイテムライターと編集担当者による作問会議を定例で開催し、複数の外部モニターによる問題案チェックを行なっている。 内部チェック体制：週1の検定運営会議で、問題点等を議題にあげ、改善を図り、PDCAサイクルに努めている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		3	○手続等に関する問い合わせ、試験後の問い合わせ先が設置され、受検願書やホームページ等に適切に公開されている。	受検者からの問い合わせは、主として「お問い合わせ窓口」で対応している。問い合わせ先はwebで公開している。 Email:nazoken@scrapmagazine.com 事務所：東京都渋谷区千駄ヶ谷5-20-4	A	受検者の不安を迅速に解消できるように対応方法を常に改善していく。

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題 ・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
I 検定試験の実施主体に関する事項	① 組織・財務	4	《検定実施主体の財務経理情報の備え置き》 ○実施主体の財務経理情報を備えているか(検定試験を継続して実施している場合には、複数年分の財務経理情報を備えているか)。	<input checked="" type="checkbox"/> 備えている 「収支予算書」「事業計画書」「収支計算書」「事業報告書」「貸借対照表」 「キャッシュフロー計算書」	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		5	《検定実施主体の財務経理の監査》 ○財務経理に関して、定期的、または、適宜監査を受けているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 受けている(<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査) 顧問税理士による外部監査を定期的に受けている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		6	《検定事業以外の事業との区分》 ○検定事業とその他の事業の財務経理の区分が明確であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 区分が明確である。 各事業ごとの区分会計を行い、明確にしている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
	② 情報公開、個人情報	7	《検定試験に関する情報公開》 ○受検者や活用户(学校・企業等)に対して、インターネット等を活用して、検定試験の実施主体に関する事項や、検定試験に関する情報が公開されているか。	Webサイトならびソーシャルメディアを開設し、検定に関する情報は常に最新のものを公開している。 Web: https://www.nazoken.com/guide.html	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		8	《個人情報保護》 ○受検者の個人情報保護に関する方針やマニュアル等が整備されるなど、個人情報保護が徹底されているか。	「個人情報保護規程」・「情報セキュリティ基本方針」を定め、的確に処理を行なっている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
	③ 事業の改善に向けた取組	9	《質の向上に向けた取組》 ○目標(Plan)－実行(Do)－評価(Check)－改善(Action)というPDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に検定試験の運営等を改善するとともに、自己評価シート等が公表されているか。	受検者への事後および事前のインタビュー調査/インターネット上のアンケート調査を通じて、受検者の生の声と統計上のデータを定点観測し、予測と実績の差分を比較検証して改善策に落とし込むことでPDCAサイクルをまわすことができている。 また、組織体制の改善を行う目的で最低でも年1回自己評価を行い、結果を公開している。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		10	《内容・手段等の見直しの体制》 ○知識・技術の発展や社会環境の変化に応じて、内容や手段等を常時見直す体制となっているか。	事業の予算内に研究・開発費用を一定で設けることで、技術変化や社会の価値観変化に対応するための先行施策への投資ならび開発を行なっている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題 ・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
II 検定試験の実施に関する事項	【評価の視点】 適正かつ公正で透明性の高い検定試験の実施体制を有するとともに、受検手続を明確にした上で目的や内容、規模等に応じた適切な取組を行っていること。					
	① 受検手続等	11	<p>《検定試験の概要》</p> <p>○検定試験の目的に沿って、測る知識・技能、領域(分野)、対象層(受検資格等)、試験範囲、水準等が級ごとに明確になっているか。</p>	<p>・60分で受検者の「ひらめき力」「注意力」「分析力」「推理力」「持久力」を計測する。</p> <p>・「一般常識」をベースとした出題になるので受検対象に制限は設けていない。(中学生以上を推奨)</p> <p>・100点満点の試験で、獲得点によってクラス判定を行う。(絶対評価)</p> <p>【1級】…100点 【準1級】…90～99点 【2級】…80～89点 【準2級】…70～79点 【3級】…60～69点 【4級】…50～59点 【5級】…40～49点 【6級】…30～39点 【7級】…20～29点 【8級】…0～19点</p>	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		12	<p>《受検手続・スケジュール等》</p> <p>○試験の実施規則・要項等において、受検手続・スケジュールが適切に定められるとともに、常時、見直しを行っているか。</p>	<p>・受検申し込み開始は検定当日の1ヶ月半前を目安としている。</p> <p>・受検申し込み・決済はWebで完結し、当日申し込みでも受検することが可能である。</p> <p>・受検者へのアンケートやインタビュー調査により適宜改善している。</p>	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		13	<p>《問い合わせ先の設置》</p> <p>○受検者からの手続等に関する問い合わせ、試験後の問い合わせ先が設置され適切に公開されているか。</p>	<p>受検手続、試験後の異議申し立て等に関する問い合わせWeb上に窓口を設置している。</p> <p>Email: nazoken@scrapmagazine.com</p>	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題 ・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
Ⅱ 検定試験の実施に関する事項	① 受検手続等	14	《受検料》 ○受検料の適正性・妥当性について点検・検証されているか。	受検者への事後および事前のインタビュー調査/インターネット上のアンケート調査を通じて、適宜妥当性を検討している。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		15	《障害者への配慮》 ○障害者が受検する場合に、その実施に伴う負担が過重でないときは、必要かつ合理的な配慮が行われているか。	当検定はWeb上のみで実施しているので、障害者が任意の環境で受検することができる。しかし、受検にあたり、補助員などの協力が必要な場合についてのガイドライン明記していない。	B	受検にあたり、補助員などの協力が必要な場合についてのガイドラインを公開する。
		15	《多くの受検者が簡便・公平に受検できるための配慮》 ○より多くの受検者が、簡便、かつ、公平に受検できるような配慮が行われているか。	申し込み・決済からからテストの実施、結果発表までを全てインターネットで完結する仕組みとなっている。スマートフォン端末からも受検できる。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
	② 試験実施	16	《作問・審査体制》 ○検定試験の目的、内容、規模等に応じて、検定試験の作問体制・審査体制が適切に構成され、運営されているか。	・有識者を中心としたアイテムライターで作問委員会を組織している。 ・過去の検定結果を解析したデータを参照することで、難易度を適正に保つ体制を整える。 ・テストの採点についてはシステムが自動で実施する。 ・採点システムに関しては、想定され得る受検環境下にて正確に動作するかどうかをテストするフローがある。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		17	《情報の管理体制》 ○検定試験に関する情報管理体制が適切に構成され、情報管理対策(情報管理マニュアルの整備や担当者への研修・注意喚起など)が講じられているか。	「個人情報保護規程」・「情報セキュリティ基本方針」を定め、運営メンバーへの周知・徹底を含め的確に処理を行なっている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		18	《試験監督業務についての共通理解》 ○試験監督業務のマニュアルが定められ、試験実施会場・機関に事前に配付されており、試験監督者等の共通理解が図られているか。	当検定はWeb上のみで実施しており、当日のオペレーション・監視・トラブル対応に関しては、マニュアルを作成しており、関係者全員から共通理解を獲得している。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題 ・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
II 検定試験の実施に関する事項	② 試験実施	19	《受検者の本人確認》 ○受検者の本人確認は、顔写真を添付した受検票の用意や身分証による照合など、本人確認が確実に実行されるよう講じられているか。	・受検者個別にIDとパスワードを発行し、本人確認を行なっている。 ・「手軽に多くの人が受検できる」という体験を崩さないため、現状、本人確認書類の提示は義務付けていない。	B	受検者に負担をかけない形で、Webシステムを活用し、本人確認の仕組みを導入していく。
		20	《不正行為等への対応策》 ○受検者の不正行為・迷惑行為防止に関する適切な対応策が講じられるとともに、対応マニュアルが作成され、職員や試験監督者等の共通理解が図られているか。	「謎検」は問題の性質上、検索サービス等の利用では解答がわからない検定となっている。 問題の出題問題や解答をソーシャルメディア等にアップロードすることは規約で禁止しており、検定実施中はオンラインで監視をしている。	B	多人数での協力受験や、本人との成り代わり受験等への対策については、Web上のシステムで可能な限り対応していく。不正への対応マニュアルを整備していく。
		21	《天災等のトラブルへの対応》 ○試験当日、天災や交通機関の遅延等があった場合には、試験開始時刻の変更や再受検の容認など、受検機会の確保について配慮されているか。	サーバーダウン等のインシデントで検定そのものが実施できない場合、特定地域での天災等があった場合などについては、追試験を実施する体制を整えている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
	④ コンピューターを使って行う検定試験	22	《コンピューターを使う場合の本人確認》 【コンピューターを使って行う試験の場合】 ○IDとパスワード等で本人確認が行われているか。	受検者個別にIDとパスワードを発行し、本人確認を行なっている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		23	《コンピューターの使いやすさ》 【コンピューターを使って行う試験の場合】 ○テスト画面や操作方法が受検者にわかり易くなっているか。	・受検者への事後および事前のインタビュー調査/インターネット上のアンケート調査を通じて、適宜ユーザビリティの妥当性を検討している。 ・推奨受検環境を指定することで、ストレスの少ないユーザビリティを実現できている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		24	《コンピューターの安定性の確保》 【コンピューターを使って行う試験の場合】 ○システムの冗長化、バックアップリカバリー等、試験が安定的に運用される体制を取っているか。	・事前に負荷試算ならびにシステムの負荷テストを実施している。 ・検定当日はサーバーを冗長化し、専門のエンジニアが常に監視する体制をとっている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
Ⅲ 検定試験の試験問題に関する事項 Ⅲ 検定試験の試験問題に関する事項	【評価の視点】 検定試験の目的や内容が明確であり、知識・技能を測る手法や審査・採点の基準等が適切であること。					
	① 測定内容・問題項目	25	《検定試験の設計》 ○検定試験の目的に沿って、適切に知識・技能を測れるよう、設計が行われているか。	各設問で、「ひらめき力」「注意力」「分析力」「推理力」「持久力」の5つの指標から、どの能力が必要かを配分し、5つの能力を客観的に測定できる設計にしている。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
		26	《試験問題と測る知識・技能の関係》 ○検定試験の設計に従って、各問題項目がつけられているか。	作問委員会による検討、解答のシミュレーションの実施、外部有識者による監修を経て問題の設計を最適化している。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
	② 審査・採点	27	《審査・採点基準の明確さ・適切さ》 ○審査・採点の基準が明確に定められており、また、これが当該検定試験の設計と合致しているか。	採点の基準は50問出題で1問1点～6点。これは問題文に明示する。難易度はコンピューターによるシミュレーション、ならびに外部有識者や外部モニターによる監修で常に均一になるように運用している。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
③ 試験結果に基づく試験改善	28	《試験結果に基づく試験の改善》 ○試験結果から得られるデータに基づき、検定試験の問題内容や測定手段、審査・採点基準について検証し継続的な改善を図っているか。	・テスト理論を用いた試験結果分析を都度行い、問題や測定方法の改善を行なっている。 ・受検者への事後および事前のインタビュー調査/インターネット上のアンケート調査を通じて、適宜も採点基準や測定手段の妥当性を検討している。	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題 ・改善の方向性等
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価	
IV 継続的な学習支援・ 検定試験の活用促進	<p>【評価の視点】</p> <p>検定試験の結果が、学習成果を示す指標として社会に適切に評価され、実際に活用されるため、検定事業者等において活用促進に向けた適切な取組を進めていること。また、受検者の継続的な学習を支援するため、検定事業者において適切な取組を進めていること。</p>				
	29	<p>《検定の結果を証明する書類の発行》</p> <p>○検定の結果を証明する合格証や認定証等が発行されているか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>発行されている</p> <p>希望者限定で合格証を発行している。</p>	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
	30	<p>《受検者が獲得した知識・技能の明示》</p> <p>○受検者が獲得した又は保持している知識・技能の内容を、活用者が一見して判断し得るよう明らかにしているか。</p>	<p>総合得点とクラス判定、各問題の正誤と解説、また5つの謎解き力の細かい分析をした成績表を発行している。また、受検者のランキングを発表し、相対的に謎解き力を判断する情報を提供している。</p>	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。
	31	<p>《検定試験と活用先の能力の関係》</p> <p>○当該検定試験と企業等や地域等の社会における諸活動との関係性が明確になっているか。</p>	<p>当検定の成績者上位を対象とした採用活動を自社で実施している。</p> <p>https://www.scrapmagazine.com/column/saiyou201805/</p>	C	研究機関と合同で、当検定と当検定の高級獲得者を対象にした調査を行い、社会活動能力との関係を明らかにしていく。
	32	<p>《受検者の継続的な学習の参考となる情報の提供》</p> <p>○受検者に対して、試験の可否だけでなく、領域ごとの成績、合格後の学習の指針など、受検者の継続的な学習の参考になる情報が提供されているか。</p>	<p>総合得点とクラス判定、各問題の正誤と解説、また5つの謎解き力の細かい分析をした成績表を発行している。また、受検者のランキングを発表し、相対的に謎解き力を判断する情報を提供している。</p>	B	学習環境充実のためコンテンツやサポート教材を開発し、提供していく。
	33	<p>《試験問題等の公開》</p> <p>○過去の試験問題や正答、類似問題等が公開されているか(ただし、試験の性質上、公開することによって、事後の出題に影響が生じるものを除く)。</p>	<p>Web上で練習問題とその解答を公開し、これまで実施した全てのテストに関しては過去問集として書籍化して販売している。</p>	A	PDCAサイクルに基づき継続的に改善を図る。